

てまのそとさうたのぞにちうさう
けれとよくさー出さねばならぬ
却てはさう輪をぬきさうま流
いさよ

き地ふ 澄々が 押寄せてきさす
阿波野青龍編は ねにとつては 言えに
有るいふです ねーい気せー
うたが又さうにふえ又理解さる
言法を得たふな 作者としてど
うにか力強いことであらうよー

八手瀧民彦

る一層 厚く 情進をきかふと
思つてさうめん 阿波野の 読
篇に改稿中とのおききさ 何と
島輝きく 由通 年とゆるら
れるとさうさうね ねいさ
お年とねきなくあいつがすがぬ
お命のまゝ 大いさ ちうあつ
ちうあつ ちうあつ
ちうあつ ちうあつ

阿波野 兄

あに

八手瀧民彦

西宮市上甲子園千日五番六号

阿波野青龍

六つたつ